【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和5年12月11日(2023.12.11)

【公開番号】特開2022-191528(P2022-191528A)
【公開日】令和4年12月27日(2022.12.27)
【年通号数】公開公報(特許)2022-239
【出願番号】特願2022-173477(P2022-173477)
【国際特許分類】
Ｈ０５Ｂ　6/04(2006.01)
Ｈ０５Ｂ　6/08(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０５Ｂ　6/04　３２１
Ｈ０５Ｂ　6/08

【手続補正書】
【提出日】令和5年12月1日(2023.12.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
高周波発振機に対し整合部を通じて接続される給電コイルと、
前記給電コイルからギャップを置いて設けられ、前記給電コイルから非接触方式で高周波電力が供給される受電コイルと、
前記受電コイルに接続され、被加熱物を誘導加熱する加熱コイルと
を備え、
前記給電コイルと前記受電コイルとが、同軸となるように、かつ軸方向に前記ギャップを置いて設けられ、
前記ギャップが調整可能であり、
前記受電コイル及び前記加熱コイルの組み合わせは一体として、受電コイル及び加熱コイルの別の組み合わせに取替え可能である、
高周波誘導加熱装置。
【請求項２】
前記受電コイルは、
一本の角パイプが略リング状となるように曲げられてなる受電コイル本体部と、
前記受電コイル本体部の一端部及び他端部からそれぞれ径方向外側に延び出るように形成された延出部と
を有し、
前記加熱コイルは、一本の角パイプが略リング状となるように曲げられてなり、前記加熱コイルの両端部が前記延出部に接続されている、
請求項１に記載の高周波誘導加熱装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】

上記目的を達成するために、本発明に係る高周波誘導加熱装置は、高周波発振機に対し整合部を通じて接続される給電コイルと、前記給電コイルからギャップを置いて設けられ、前記給電コイルから非接触方式で高周波電力が供給される受電コイルと、前記受電コイルに接続され、被加熱物を誘導加熱する加熱コイルとを備える。前記給電コイルと前記受電コイルとが、同軸となるように、かつ軸方向に前記ギャップを置いて設けられ、前記ギャップが調整可能である。前記受電コイル及び前記加熱コイルの組み合わせは一体として、受電コイル及び加熱コイルの別の組み合わせに取替え可能である。